

令和2年度 長野県農業大学校 評価表

評価 A:目標を上回った B:ほぼ目標どおりできた C:目標を下回った

1 学校教育目標

内 容	R2評価
理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化、経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により他者との協調、自己の確立等の社会性を涵養し、21世紀の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	B

2 重点目標

内 容	R2評価
学生の学習意欲の向上と授業内容の充実に向けて職員の教育力を向上するとともに、本校のPRを積極的に行って出願者の確保に努める。	B

3 当該年度の評価項目等

(1) 共通項目(総合農学科、実科・研究科)

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R2評価
			成果(○)と課題(●)	改善策	
学 習 指 導	授業実習内容の充 実を図る	授業改善に向けた取り組み ○ 教授要目に基づいて計画的に授業を実施できたか。 ○ 職員の教育力向上のために研修の機会を設けたか。 県が開催する研修会に参加することができたか。 ○ ねらい、展開、見とどけの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたわかりやすい授業を行ったか。 ○ 中間テスト等による学生の理解度の把握や学生への授業アンケートの実施と、結果を踏まえた授業の改善ができたか。 ○ 学生の授業、進路、寮生活などに関する要望を面談などにより随時把握し、学習内容や進路指導の参考としたか。	○ 新型コロナ対策で4月は休校となり授業計画の再編成を行った。その後は教授要目に基づいた授業はできたが、リモート授業や5時限授業、休假日数の減などの対応となった。 ○ 職員の研修は、学生への対応や職員間の授業参観による教育力向上の機会を設けた。また、全国協や県が主催する研修会にはオンラインを含め参加した。 ○ 授業開始時に授業の概要について説明し、パワーポイントの活用と分かりにくい場面では実物を提示するなどの授業を行った。 ○ 関心や習熟度を確認するためレポート提出や中間テストを行うとともに授業アンケートを実施し授業改善に取り組んだ。 ○ 1学年、2学年とも面談を行い進路指導や寮生活も含めた要望に対応した。	○ 教授要目内容を確認し重複項目の修正を行う。 ○ 講義実習開始前に目的や内容を十分説明する。 ○ 圃場での実物や栽培の説明をすることで、より理解度の向上を図る。 ○ 出身高校の違いによる学生レベルの違いに対応した指導に取り組む。	B
		新しい知識・技術への対応 ○ スマート農業に関する講義の充実と関連企業との連携強化ができたか。 ○ 青年農業者、先進的農業経営体への視察研修や講義を行ったか。 ○ GAPや農場HACCPなど新しい国際規格の知識習得や農場経営における実践について講義、演習を実施したか。 ○ 「長野県農業を担う人材の教育支援協定」を活用した講義を行うとともに、県内農機メーカーとの連携を検討できたか。 ○ 関係試験場の開発した新技術や新品種について、現物を踏まえた適期での講義・実習が実施できたか。	○ スマート農業論は2年次に関連企業による講義と演習を新設し関連企業との連携強化による充実を図った。 ○ 各学科目で先進農業経営体等への視察研修や講義を実施することができた。 ○ 新しい国際規格の知識を習得し、農業経営における実践を目指した演習を実施し、カラーピーマンのGGAP認証を取得した。 ○ 支援協定による講義を計画どおり実施するとともに、その他に農機メーカーと連携して講義・実習を行った。	○ スマート農業の講義内容について、さらに連携を図り向上させる。 ○ 活用事例を紹介しながら意識の向上を図る。	A
		資格試験の受験者数と合格率の向上に向けた取り組み ○ 資格取得の動機づけを行う等、各種資格試験や検定試験を奨励し、合格率目標を定め、学生の学習意欲を高められたか。 ○ 合格率向上に向け、受験にあたり事前学習や小テストを実施したか。	○ 資格取得の効用について、説明する機会を複数回設け、意欲向上を図った。 ● 全員受験の簿記検定では3級合格率46%で全国平均を下回った。また、毒物劇物取扱者試験合格率は23%で、昨年よりも向上したが、県平均を下回った。 ○ 農業機械 I (大特農耕車運転免許取得)では、全員の資格取得ができた。	○ 学生の動機付け、学習意欲を高め合格率の向上へ結びつける。 ○ 事前学習、技能指導を行う。	B
	効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	○ 実践経営者コース2年生の模擬経営実施のための農場や施設等の確保・調整ができたか。 ○ 計画的な作付により、年間通したほ場の有効活用が図られたか。 ○ 1年生は、必要な実習ができたか。また、現地体験実習に、必要な基礎的知識、技術を習得させたか。 ○ 圃場管理運営の打ち合わせに基づいて各専攻とも適期には場管理ができたか。	○ 1名が模擬経営、1名が就農地での長期農業経営体実習を実施し、模擬経営については、農場や施設・機械の確保調整が図られ、目標に向けた作業ができた。 ○ 農場の利用計画に従い、実践経営者コース2年生の模擬経営のための圃場・施設を確保するとともに、年間を通じたほ場の有効活用ができた。 ○ 現地体験実習前に、事前実習として2コマ×4回を行い、専攻ごとに予備実習を行うとともに刈払い機・小農具の使い方、ロープの結び方の特別実習を実施した。また、各科目総論の主要部分を後半の現地体験実習前に実施した。 ○ プロジェクト課題用ほ場については、ほぼ計画通りに進んだ。なお、コロナ対応のため学校が開始されるまで5月上旬職員の協力によりスムーズに進行できた。 ○ コロナの影響で後期のみ現地体験実習となったが、全員が無事に終え、充実した実習ができ報告会ができた。	○ 実習前に受入れ農家で生活指導を加えて行う。	B
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	○ 学生の進路の意向を聞き取り、その情報を職員間で共有できたか。 ○ 1年生は11月末を目途に将来の進路を決定するよう指導できたか。 ○ 2年生は12月末を目途に全員の就農及び就職先等決定するよう指導できたか。 ○ 進路・就農指導等に関し、関係機関とも連携して対応できたか。	○ 5月に面談を行い、進路について確認しアドバイスを実施するとともに、継続的に職員向け資料を配布した。 ○ 新型コロナ禍ではあったが保護者とともに懇談会を実施し進路決定を指導した。 ○ 2年生には、個別にあっせんを繰り返し、12月時点で32名中30名の進路が決まり、2月には全員が決めた。 ○ 法人就農希望者は1年生の時から情報提供し7月までにはほぼ決定した。	○ 進路が定まらない学生に対し、早期に面談を繰り返し実施する。 ○ 進路については学生が自分のこととして主体的に活動できるよう指導する。	B

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R2評価
			成果(○)と課題(●)	改善策	
生活指導	社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成に努める	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年担当者会議を定期的に行って教授間の情報共有を行い、全員で指導する体制ができたか。 ○ ホームルーム、交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 ○ 寮生活や自治会活動を通じて社会人としての意識を醸成する指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学年担当者会議を必要に応じて開催したほか、教務会議等で情報を共有することができた。 ○ 健康講座は担当する保健所多忙につき開催できなかったが、学生のモチベーション向上の特別講演会を開催した。 ○ 学校行事等の前に随時学年担当者打合せを行い、全員で指導した。 ○ 月一回の寮自治会の執行委員会を開催し、学生の自主的な寮運営等に反映した。 ○ 適正な対策と啓発によりコロナ禍の中で一人の発症者も出さずに寮運営ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生同士の意見交換会を開催する。 ○ イベント等が中止となる中で学生のモチベーションを維持する方策に取り組む。 	B
	自他の生命・人権を尊重する精神を養い、男女が共に支えあう豊かな心を育成する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 寮生活を通じ、先輩と後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。 ○ 各コース間および学年間の交流が図られたか。 ○ 各学科ごとの環境に対応した指導ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 寮自治会主催で、1年生入寮歓迎夕食会と、新入生歓迎焼肉会を、新型コロナ対策を講じながら開催した。例年に比べて、より深い交流を図ることが出来た。 ○ 専攻内で合同の授業や実習に取り組み学年間の交流ができた。 ○ 部活動や収穫祭で学生が主体的に交流する機会を作ることができた。 ○ 実科生と研究科生が全員で参加できる体育授業や研修旅行等を通じ、学生間の交流を深めることに努めた。 ○ 畜産、南信、野菜花き合同の体育大会を通して、各実科研究科の交流が図れた。 		A
学校運営	農業機械や施設機器の充実と適正な管理	農業機械の充実 <ul style="list-style-type: none"> ○ 農場実習等の農作業に必要な機械と設備の修繕や更新は計画的に行っているか。 ○ 導入したスマート農業機器と設備の効率的利用ができたか。 機械の適正な管理 <ul style="list-style-type: none"> ○ 農業機械、施設及び機器の故障や修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営が行われているか。 ○ 適切な操作方法を習得させたうえで学生に機械利用させたか。 ○ 使用できない機械の廃棄が行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 機械の修繕やメンテナンスが必要となり、更新等が一部できていない。 ○ 昨年度から導入が進んでいるハウス環境観測機器を活用して栽培管理に役立っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続きさらなる予算確保に努める。 	B
	学校用地や施設の適切な維持管理	<ul style="list-style-type: none"> ○ GGAP認証取得団体にふさわしい整理整頓がなされているか。 ○ 実習棟、機械庫等は、定期整頓日の設定などにより整理整頓がなされているか。 ○ 定期清掃日の設定などにより、農場以外の学校用地や校舎等施設の維持管理が適切に行われたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ GGAP認証のため整理整頓ができたが、認証を受ける品目以外での整理が不足している。 ● 機械庫の清掃ができていなかった。 ○ 定期清掃により環境整備を実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 行事中止により事前清掃が行われない場合、臨時的清掃時間を設ける。 ○ 清掃箇所の点検を行い清掃日を設定して徹底をはかる。 	B
	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校案内、募集チラシを作成して配布し、農業大学校への関心を高めることができたか。 ○ サンデー見学会、オープンキャンパスおよび体験学習等を充実し、農業大学校への関心を高めることができたか。 ○ 高校訪問や進路指導担当教諭会議等を通じて農大のPRや情報収集ができたか。また農業高校以外の進路担当教諭にも十分周知できたか。 ○ 農業高校との一層の連携を推進するために、「農大・農高の連携会議」を開催し、農高生の体験入学等を実施できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校案内を刷新して2,500部作成し、募集チラシとともに県内全高校や希望者に配布した。 ○ オープンキャンパスは、当初7月下旬の平日を予定していたが、新型コロナ対策により8月の日曜日に2回、県内者限定として開催した。(参加者76名) ○ 参加できなかった県外者については、9月に学校見学会(土日6日間)として開催した。(参加者15名) ○ サンデー見学会は、新型コロナウイルス感染症防止対策をとりつつ実施することができた。 ○ 進路指導担当教諭会議は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止とし、資料送付のみとした。高校訪問は、7月から訪問を開始し、予定していたすべての高校(77校)訪問を行った。 ○ 体験学習は新型コロナ対策としてオープンキャンパスにあわせて実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナ対策を進めながら、開催時期、実施内容等、本校への関心が高まる手法を検討する。 	B
	ホームページの充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援の様子を各専攻のブログ等で頻繁に発信できたか。 ○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。 ○ 広報委員会を定期的に開催するとともに、HPのあり方が検討されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農大ホームページにおいて、学校評価の公表、学習内容・進路、授業料等減免に係る確認申請書や授業料等の紹介、入試案内、オープンキャンパスや学校見学会などの行事の紹介を行い、積極的にPRした。 ○ 年度初めは、月2回程度ブログ等で情報発信していたが、その後回数が少なくなってしまう。12月から積極的な情報発信に努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 次年度は計画的に情報発信を実施する。 	B
	予算執行の適正化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場は専攻別に、管理運営は費目別に執行状況を管理し調整できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 農場は専攻別に、管理運営費は費目別に予算執行状況を把握し、職員への情報提供及び執行時期等の調整を行い、計画的な予算執行に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 引き続き計画的な予算執行に努める。 	B

(2) 実践経営者コース

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R2評価
			成果(○)と課題(●)	改善策	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生における各論実習の充実と目的意識を持った農業経営体験実習ができたか。 ○ 希望する就農形態に合わせて模擬経営と長期農業経営体実習を適正に選択するとともに、就農後予想される課題の把握と対応策が検討できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長期農業経営体験研修では、課題を定めてプロジェクトを農業農村支援センターの協力のもと実施することができた。また、就農に向けた検討会を関係機関を集めて8月24日に実施した。 ○ 1名が模擬経営、1名が就農地での長期農業経営体実習を実施をし、7月27日に校長以下関係教授、実践経営者コース1年生の出席のもと中間検討会を実施した。また、長期経営実習のまとめを行い、2月3日に実績発表会を実施した。 		A

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R2評価
			成果(○)と課題(●)	改善策	
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農支援プログラムに基づき、早めに関係機関や研修先農家と連絡を取りあい就農形態に応じたきめ細かな個別就農支援ができたか。 ○ 職員間の連携により、授業計画、授業管理などのコース運営と就農支援が一体的に実施できたか。 ○ 現役農業経営者にアフターフォローを依頼する等、卒業生のフォローアップが充実できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 実践2年生の2名については、次年度を見据え市町や農業農村支援センターとの打ち合わせを行った。次年度就農の1名については、関係機関との検討会を8月24日実施したほか、就農計画の作成支援を行った。もう1名については、次年度からの研修制度への申し込み支援を行った。 ○ アドバイザーメンバーによる卒業生のフォローアップを実施した。 		A
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農に向けた相談会、コース説明会等の通年実施や農業高校への働きかけ等によりコースの内容等をアピールし、効果的な募集活動ができたか。 ○ 独自の募集チラシを作成して関係機関や団体に配布し、募集の周知ができたか。 ○ 市町村やJA等の関係機関、団体と連携を密にし、人材の掘り起こしができたか。 ○ 専用ブログやメディア等様々なPR媒体の活用等により、授業内容や卒業生の営農状況を紹介するなど、効果的なPRができたか。 ○ 3回の入試を行い、令和3年度出願者の確保に努めたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 独自の募集チラシを作成し、高校及び関係機関団体へ配布し募集を周知した。 ○ 情報誌Hot pal、長野市民新聞に募集広告を掲載した。 ○ 市町村やJA・農業高校との連携により人材発掘に取り組むことができた。 ○ 実践経営者コースのPRのため、信濃毎日新聞のキャンパス通信のコーナーに2年生のメッセージを掲載した。 ○ 令和3年度入試出願者は11名で、6名の合格者を確保した。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 様々な媒体を活用し、積極的に募集活動を行う。 	B

(3) 農業経営コース

対象	評価項目	評価の観点	達成状況		R2評価
			成果(○)と課題(●)	改善策	
学習指導	授業実習内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生によるプロジェクト巡回は、事前指導により質疑応答など活発に実施できたか。 ○ 1年生は全ての専攻でミニプロジェクトが実施されたか。 ○ プロジェクトは、学生の能力に応じて経営管理能力を習得させるよう、全学生が経済性の検討を充実するとともに、労働時間の考察が取り入れられたか。 ○ プロジェクトでの生産物を自ら販売し、経営感覚を学ぶよう販売体験機会を増やすなど改善が図られたか。 ○ マーケティング手法の習得を目的として、のうだい屋と農大祭が実施できたか。また、のうだい屋開催時に、1、2年生間で協力できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 各専攻ごとに積極的な質疑応答が行われ有意義な巡回となった。 ○ ミニプロジェクトは一部の専攻で未実施だったが、1年生時からプロジェクトを開始する学生も見られた。 ○ 全学生のプロジェクト研究に経済性の検討をさせ、発表では、全32課題中、作物2課題、野菜11課題、花き5課題、果樹6課題(75.0%)で、経済性や労働時間の考察を行った。 ○ 生産物については学生が主体的に収穫・調整し出荷を行い、のうだい屋・長野東急百貨店等の出品でも1年生をリードし販売方法に工夫をし適切に運営することができた。 ○ 農大祭は新型コロナウイルス感染症の拡大により開催できなかったが、のうだい屋は臨時1回を含め7回実施した。うち3回は1、2年生が協力して販売できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 1学年時から開始が必要なプロジェクト研究は、早期に各専攻教授による指導を行う。 	A
進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 就農への意識づけに向け、農業経営演習を充実できたか。 ○ 就農支援プログラム等に基づく様々な就農形態に応じた個別、計画的支援ができたか。 ○ 雇用就農については、法人説明会への出席を促すなど法人との接点を多くし、理解を深める指導ができたか。 ○ 卒業生を就農地の現地機関に確実につなげることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外部講師として阿南町の就農支援に対する取り組みや、政策金融公庫による就農に向けた経営支援など、担当者から直接話しを聞くことができた。 ○ 7/13農業法人合同説明会を開催し、17法人の参加があり、ブース訪問により直接法人の担当者と面談する機会が得ることができた。 ○ 10/10信州うえだファームと関係市町村でつくるNPAプロジェクトの現地研修会に、学生4名が参加し就農に向けた情報を得ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 法人説明会の参加法人と学生とのマッチングは、説明会直後に集中的に実施する。 	B
学校運営	学生募集のPRを更に充実する	<ul style="list-style-type: none"> ○ 3回の入試を行い令和3年度出願者の確保ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 新型コロナ対策のため例年どおりにオープンキャンパス、体験学習を実施することができなかった。出願者数については、推薦入試は少なかったが、一般入試は、前年を上回る出願があった。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 優秀な学生を確保するには、出願者を多くする必要がある。本校に関心を持ってもらい受験してもらえよう引き続きPRを行う。 	B